

“KANAGAWA”

福祉タイムズ

2003 12 No.625

発行日 2003年（平成15年）12月15日
毎月1回15日発行
発行所 〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2
社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会
TEL045-311-1423 FAX045-312-6302
<http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/>
編集発行人 清水勝夫
定 価 100円（郵送料込）
印刷所 神奈川新聞社
昭和27年1月30日 第三種郵便物認可



「将来を受けとめたい」富田潤さんは、パソコンの専門学校を卒業したが就職できない上に、ハンディー抱えながらどう生きていくか悩んでいた頃、神奈川県障害者自立生活支援センター（KILC）と出会う。事務局員となり多くの人と出会う中で、障害の有無を問わず人は対等だと実感する。「健常者とのコミュニケーションで戸惑うこともあるが、地域で生活を始めて本当に良かった。自分らしい生き方を探しながら、気持ちの通じ合う人間関係を作っていきたい」と優しさがにじむ笑顔で話す。（写真・文 菊地信夫）



厚生労働省老健局長の私的研究会である「高齢者介護研究会」では、団塊の世代が高齢期を迎える二〇一五年を目処に、地域包括ケアシステムを提案しています。それは要介護高齢者の半数、施設入所者の八割が痴呆の影響を有していることから、痴呆性高齢者ケアを中核とする新しいケアモデルを確立し、三百六十五日・二十四時間の安心確保に向けた、切れ目ない在宅サービスの提供や自宅や施設にとられない多様な「住まい方」の実現など、新しいサービス体系の確立です。

そこで注目されてきた「小規模多機能サービス拠点」の整備。高齢者の生活圏域で完結される様々なサービスの提供です。

地域の高齢者に関わってから十数年来待ち望んでいた、「居たまま老人ホーム」構想に一步步近づいてきたようです。これは数年前、ある業界紙の連載に書いた私の造語です。施設同様の安心と安全が確保されるなら、住み慣れた我が家が一番です。しかし現状はほど遠く、施設志向が高いのようなずけることです。私が後期高齢期を迎える頃には、是非とも実現したいものです。ひたすらその日を夢見て頑張っている毎日です。

NPO法人かまくら在宅生活相談センター
理事長 樽井彰子

目次.....CONTENTS

職場での人材育成を支えていくために.....	2・3
厚生労働省が来年度の年金制度改正(案)を示す.....	4
「自分らしく生きる」障害者フォーラム開催.....	5
福祉医療ネットワークの広がりを願い.....	6
かながわ長寿社会開発センターいきはつらつ.....	7
連載・心のゆたかさをはぐくむ(9).....	10・11

職場での人材育成を支えていくために

ー研修受講履歴管理サポートシステム構築への挑戦ー

サービスの質が厳しく問われる昨今、人が人を援助する社会福祉の現場では、職員の資質の向上がサービスの質に直結するといわれています。また、経営面からは、法人固有の福祉理念に基づいて効率的に職員育成を行うためには、独自の人材育成計画を持つことが求められる時代になっています。

本会研修研究課（以下、本会）では、福祉従事者向け研修の効果を上げるために、職場ごとの人材育成理念・計画作りに積極的にかかわる方向性を打ち出し、関係者の協力を得てその仕組みづくりに取り組んでいます。今回はその全体像および今後の取り組み状況をご紹介します。

県域の研修機関としての役割

福祉従事者（以下、従事者）数が圧倒的な勢いで増加する中、県内従事者に対し研修を行ってきた本会では、各施設から受講者を募り研修を実施するだけでは、研修ニーズに十分応えることができていないと感じていました。そこで、平成六年度より外部識者を招いて、本会の研修機能のあり方について継続的に検討を続けてきています。その検討から、

①専門性を重視した、従事者の生涯型研修のあり方を構築
②従事者の身近な地域（職場域）での、研修実施方法・体制の確立
③新たな研修ニーズに対応した、研修カリキュラムの開発・実施

という結果を得て、八〇九年度以降、研修計画等を大幅に見直すなどの改善を行ってきました。

とりわけ、職場の人材育成を推進するリーダーとなる職員を育てる研修に力を入れ、「職場内研修担当者研修」や「スーパーバイザー育成研修」を実施してきました。これらの研修については、「新任職員研修」や「施設幹部職員研修」などの階層別研修で意図的に報告することで、職場研修リーダーだけでなく、一般職員から管理者までが人材育成に同じ認識を持つこ

とができ、結果としてそれぞれの職場の意識変革が飛躍的に進むことが分かってきました。

一方、研修申込み者数の推移や受講者の反応から従事者や施設側の人材育成への取り組みの変化を感じます。「救急法」や「接遇研修」の例では、受講修了者が職場で研修の講師となっていたり、「サービス提供責任者育成研修」などのリーダー養成研修に多くの申込みがあるのも、職場で人を育てるとい

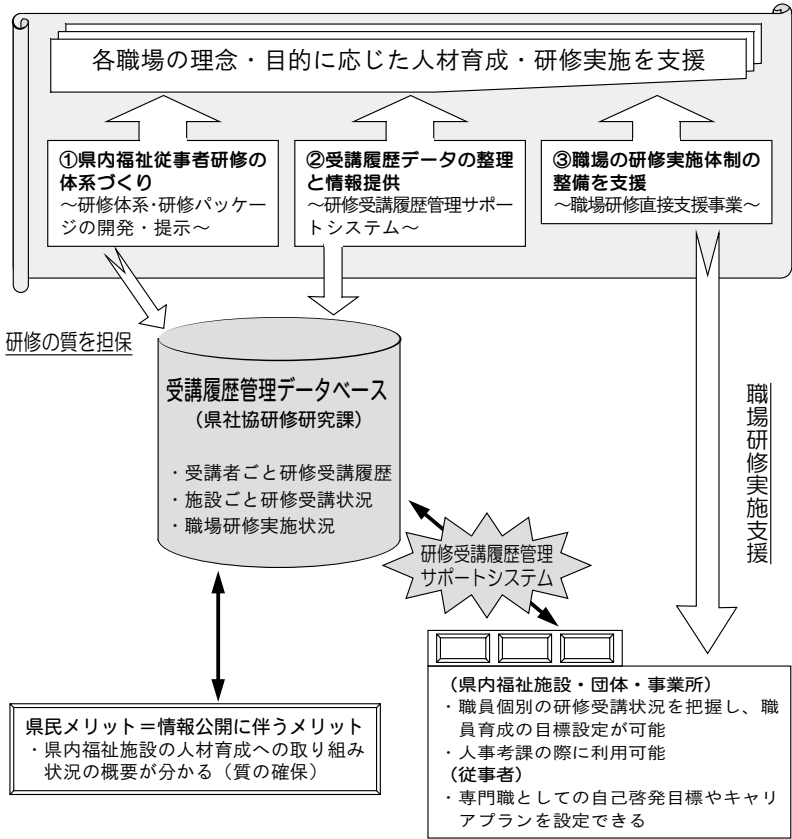
体系的な研修実施に向けて

意識の高まりや指導者養成に力を入れていたためと推測されます。

周辺環境の変化を受け、十二年度より、これまでの研究会を発展させ、新たに「研修企画等専門委員会」を設置しました。この委員会では、今後の本会の役割として、前回の報告をさらに深めた方向性が示されました。

①階層別・職種別研修体系の策定

（図１）県社協職場研修支援業務全体像



と研修プログラム開発
②体系的研修に基づいた研修受講履歴の認証制度の開発
③新たな課題に向けた研修実施(権利擁護研修・在宅従事者向け研修等)

この方針に基づき、十四年度からはスーパービジョンを行える職員を育てるための階層型の「基幹研修」や介護支援専門員・訪問介護員を対象とした研修の充実に努めています。また、新任職員研修受講者とその所属長の協力を得て、従事者の研修受講状況の調査を行うとともに、体系的な研修実施を進めるために、受講者データを保管・管理して所属施設にお返しすること、試行的に始めました。

併せて、法人・施設からの研修企画依頼・研修体系作成協力依頼などにも積極的にかかわり、実践を積み重ねています。

高い効果は計画的な研修実施から

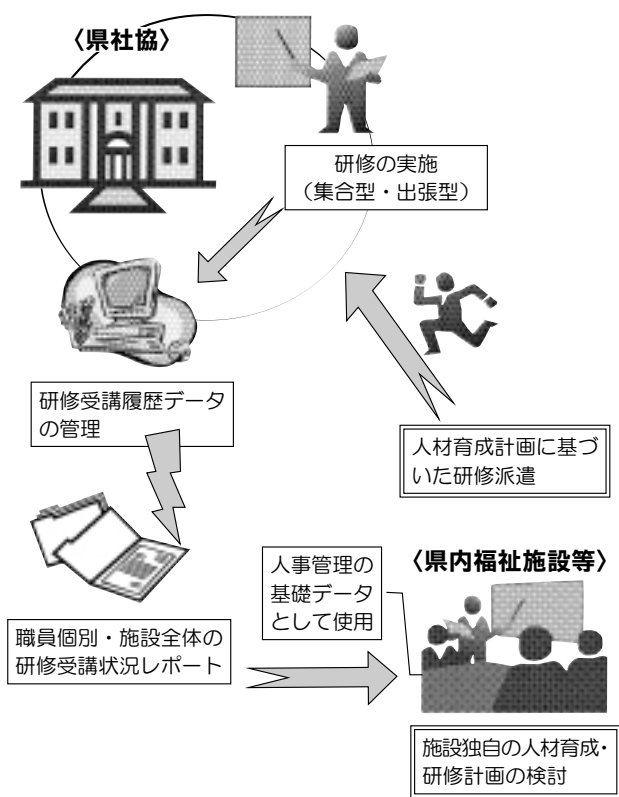
昨年度から始めた様々な取り組みは、職場ごとの人材育成をそれぞれの事情に応じた形でサポートするしくみを作るために始めたもので、支援に向け、三本柱を実現したいと考えています(図1)。

その一つが、現在検討中の「**研修受講履歴管理サポートシステム**」です(図1の②)。このシステムは、

本会主催の研修を受講された従事者の研修受講データを整理し、従事者本人とその所属施設にお渡しすることで、職場全体の研修計画や人事管理の基礎データとして活用していただけるよう、情報提供をする仕組みです(図2)。

現在は、本会主催研修を中心に検討中ですが、将来的には他機関

(図2) 受講履歴データの活用例



にしていければと考えています。同時に、受講履歴データを活用した、個々の職場における研修計画の策定協力や必要な研修の企画実施にも積極的にかかわっていきたいと考えています。

一般の民間企業に、その会社を支える人材を育てるための研修担当セクション(センター)が存在

研修受講履歴データの管理



職員個別・施設全体の研修受講状況レポート

人事管理の基礎データとして使用

人材育成計画に基づいた研修派遣

〈県内福祉施設等〉

施設独自の人材育成・研修計画の検討

実施研修についてもデータとして組み込み、従事者が職場内外で受講した研修や教育の内容を一覧できるとともに、履修状況に応じて従事者資質の認証をするなど、利用者へのサービス向上のための基準となるようなサポートシステム

しているように、本会が、一つの施設ごとでは管理や計画が難しい人材育成について、県内の福祉業界の研修担当セクションとしての役割を担い、従事者及び社会福祉法人等の経営主体を支援すべく、検討を続けています。

全国初のシステム実現に向けて

試行的に取り組んだ本事業は、その先駆性を期待され、本年度より福神奈川県共同募金会の助成金を受けて、集中的に検討をすすめることが可能となりました。その結果、これまでの受講データや研修実施データの整理とともに、従事者が職場の内外でどのような研修を受講しているかの調査やデータをもとにした「職場研修の実施方法の検討」、「システム構築」など、順を追って実施していく予定です。

システム完成までの間には、会員法人・施設の皆様に、データの提供やヒアリングの依頼などご協力をいただく場面が考えられます。本年度は、「新任施設等職員研修」受講者を対象とした、研修受講履歴調査をお願いする予定です。この取り組みを通じて、利用者の方々に、個々の組織の理念に基づく質の高いサービスが提供されるよう、働きかけてまいります。

今後も、県内法人・施設のそれぞれの理念に沿った従事者育成と、従事者自らが目標を持って専門性を伸ばしていける研修の機会が得られるよう、このシステムの構築に取り組んでまいります。皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

(研修研究課)

厚生労働省が来年度の年金制度改革(案)を示す

今回示された公的年金をめぐる

ています。

案では、十二年度改正時での課題と一層進行を続ける少子高齢化や女性の社会進出等に伴う就業形態の変化等の社会情勢を鑑みながら、「社会経済と調和した継続可能な制度の構築と制度に対する信頼性の確保」と「多様な生き方、働き方に対応し、より多くの者が能力を発揮できる社会につながる制度」の二つの基本的考え方を基にまとめられ

なお、厚生年金保険及び国民年金の福祉施設（国又は特殊法人が設置主体の公的施設、社会保険病院等）については、厳しい財政状況や社会環境、国民ニーズの変化等を踏まえ、今後、施設整備に保険料財源を投入しない方向で見直すとしています。

※ <http://www.mhlw.go.jp/hou dou/2003/11/h117-1.html>

基本的考え方に基づく具体的内容

《改正の基本的考え方》	
1 社会経済と調和した持続可能な制度の構築と制度に対する信頼の確保 ～現役世代の負担への配慮と公的年金にふさわしい水準の確保～	2 多様な生き方、働き方に対応し、より多くの者が能力を発揮できる社会につながる制度
《改正の具体的内容》	
○どのような制度体系をとろうとも給付と負担の見直しは必要 ○現行制度以外に議論されている制度体系には問題点や導入についての様々な制約	○就業形態の多様化等に対応し、就労を抑制することなく、多様な生き方、働き方の選択に柔軟に対応できる仕組み、就労等様々な形で貢献が年金制度上評価される仕組みとする
○現行の制度体系の下で、将来の現役世代の負担が過重にならないようにすることと、高齢期の生活の基礎的な部分を支える給付水準を確保することのバランスをとった給付と負担の見直し	○在職老齢年金制度の見直し等（高齢者の就業と年金） ・60歳前半の在職老齢年金制度の見直し（一律2割の支給停止措置の廃止） ・70歳以降も在職中は被保険者とし保険料を負担。在職老齢年金制度を適用し、賞金と年金の合計額が高い場合は支給停止 ・65歳以降の老齢厚生年金の繰下げ制度を導入し、引退と年金受給年齢を選択できるようにする（支給停止の効果は継続） ・さらに支給開始年齢を上げること、今回改正では行わない
【給付と負担の見直しを行うに当たっての基本的課題】 ○基礎年金の国庫負担割合の2分の1への引上げ ○厚生年金、国民年金の保険料引上げの凍結解除	○短時間労働者への厚生年金の適用拡大 ・週所定労働時間20時間以上の者を基本的に適用。適用に当たっては、産業・企業に与える影響等を踏まえて経過措置など配慮 ・標準報酬の下限を引下げて適用。被扶養配偶者の給付は行わない
【有限均衡方式の導入】 ○財政均衡期間を100年程度とし最終年度（2100年）の積立金を給付費の1年分に抑制	○次世代育成支援の拡充 ・子が3歳に達するまでの間、育児休業をとった時の保険料免除措置の拡充、勤務時間短縮等により標準報酬が低下した時の年金額計算上の配慮措置（従前の標準報酬額を適用）
【保険料水準固定方式とマクロ経済スライドによる給付の自動調整】 ○厚生年金の最終的な保険料水準を20%に固定（国民年金は17,000円台（16年度価格）） ○社会全体の保険料負担能力の伸びに見合うよう年金改定率（スライド率、2025年度までは平均年0.9%程度）を調整することで、年金の給付水準を調整（ただし調整は名目額を下限とし、名目額は維持） ○給付水準の調整を行っても高齢期の生活の基本的な部分を支えるものとして給付水準は50%を下限とし、50%から50%台半ばを確保	○女性と年金 ・第3号被保険者期間についての年金分割制度の導入 ・離婚時の厚生年金の分割（保険料納付記録の分割） ・遺族年金の見直し（自らの老齢厚生年金を全額受給した上で、現行水準との差額を遺族年金として支給、子のいない若齢遺族配偶者への給付の有期化）
厚生年金の最終保険料率20%固定 ―基準コースで、2013年以降モデル年金の所得代替率54.7%―	○障害年金の改善 ・障害基礎年金と老齢厚生年金の併給を可能とする（障害を有しながら就労したことを年金制度上評価する仕組みとする）
○年金課税の見直し ○国民年金保険料の徴収対策の強化 ○年金制度の理解を深めるための取組 ○第3号被保険者の特別届出の実施 ○年金積立金の運用の在り方を見直し ○企業年金の安定化と充実 ○福祉施設の見直し	

※厚生労働省資料の一部を抜粋

社会的養護のあり方に関する専門委員会が報告書を公表

本年六月の「児童虐待の防止等に関する専門委員会報告書」を踏まえ、

児童の社会的養護のあり方を検討してきた、厚生労働省の社会保障審議会児童部会専門委員会が報告を

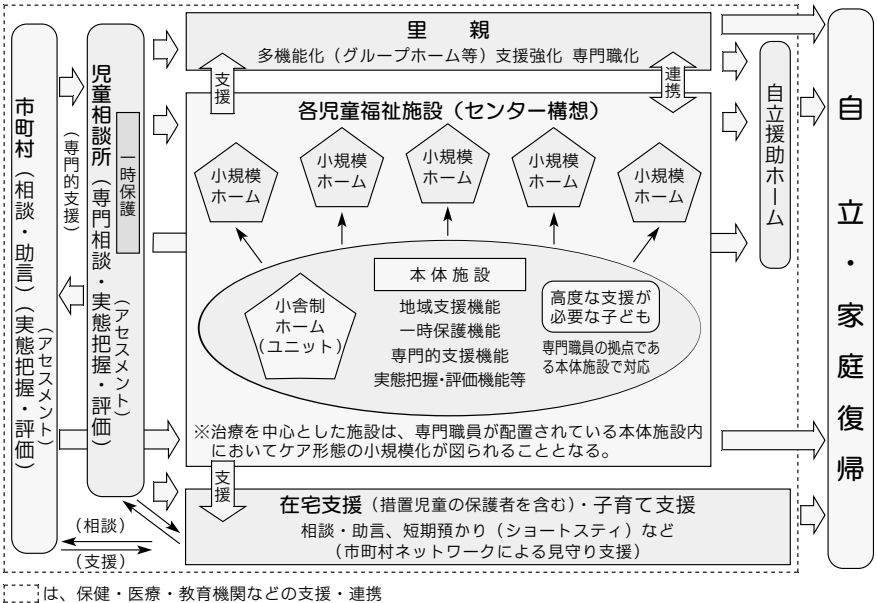
まとめました。

本報告書では、社会的養護のあり方として、現行の仕組みを超えた制度や意識の転換の必要性、ケア形態の小規模化、

親、年長児童への支援、児童福祉施設の創意工夫を促す仕組みの導入等を求めています。

また家庭的養護は、里親制度の一層の啓発や負担軽減に向けた支援強化、研修体制の充実、親権の一部代行等による責任の明確化など、施設養護では、前述の社会的養護のあり方を踏まえ、より家庭的な中での個別ケアの提供を基本とし、各施設の本体施設を治療機能等を有する基幹施設と位置付け、専門職員の配置を求め、在宅

これからの社会的養護のあり方（案）
＝ 各児童福祉施設を基幹施設（センター）とする ＝



〔 〕は、保健・医療・教育機関などの支援・連携

法の見直し等の必要性を、今後の方向性として示しています。

※ <http://www.mhlw.go.jp/shin gi/2003/10/s1027-8.html>



分科会では当事者やその関係者が
活発な議論をかわした

「自分らしく生きる」障害者フォーラム開催される

障害者自身が主体となり、自立と地域生活の形成への支援を行う、「NPO法人神奈川県障害者自立生活支援センター」(通称:KILC)主催の「障害者自立生活フォーラムかながわ」が、十一月八日、県社会福祉会館で開催されました。

本年度開始された支援費制度の現状や課題について話し合い、広く提言していこうと開催された本フォーラム。基調講演では、弁護士森田明氏が、施設でリハビリ中に事故に遭ってしまった身体に障害のある方の事例を挙げ、事故責任だけでなく、当事者の意思が福祉サービスに反映されない状況や事前説明がない中での個人情報

の収集のあり方などを中心に訴えたいいわゆる「リハ裁判」と、職場解雇に対する「障害裁判」の二つの人権を巡る裁判から、人権擁護の現状について講演しました。

森田氏は、『リハ裁判』では、障害者の主体性や自己決定権がどれだけ認められるかということに論点が集めたが、敗訴に終わった。それは、当事者が介入することなく運用されてきた『措置制度』が、マイナスに働いた結果だと感じた。一方、まだ経過途中中の『障害裁判』は、昨今の障害者に対する意識の変化を追い風に、発想の転換が図ればと考えている。『支援費制度』に移行された今、障害者の権利を確かなものにしていくためには、当事者一人ひとりが、可能な形で権利を主張していくことが大切」と結び、当事者自身が制度を育てていくことの必要性に触れました。

分科会では、県内各地から集まった障害のある方々や施設、行政関係者等が、人権や支援費制度、ITなどの様々なテーマについて、それぞれの思いや今後の展望などを語り合いました。

◆KILC 厚木事務所

☎ 046 | 247 | 7503

読者の声

―冥利が悪い―

十月にこの欄に掲載された、勇作さんの話を読んで共感しました。どうして日本人はこんなに公共性が失われたのか。敗戦で人心が荒廃したのも一因かもしれませんが、戦前に比べ、教育水準が格段に向上して、科学知識が普及したためかとも思われます。

識字率の低かった昔は、寺の屏風や壁画に描かれた「地獄絵図」などで、悪いことをすると来世はこうなると火の海や針の山、閻魔大王の顔などを見せられて、罰があたると信じ込まれましたが、今は来世など信じられていません。あるテレビ番組の言葉遊びで、「冥利が悪い」をやっていました。

人を騙して稼いで冥利が悪いとは、貧乏でも正直に生きようとの気持ちで、それに反するのは罰当たりな事と厳しく躰られました。私たちより少し上の世代は、修身で歴代天皇と教育勅語を暗記させられ、軍隊で連帯責任として、勝手な行動が皆の迷惑になること

を教え込まれました。修身の一部はともかく、教育勅語の基本は目上を敬い弱いものを助け、家族友人と仲良く、世のため人のため一生懸命働きなさいと言っているのて、軍国主義の反動でこの部分までなくなってしまったのは残念です。

鹿児島県鹿屋市の「鹿屋航空基地史料館」を見学して、父母兄弟を思いながら故郷の山河を守るため、特攻隊として粗末な飛行機で飛び立って行かれた若人の心は、陳列された遺書を読みますと切々と胸に迫り、さらにその達筆な墨蹟は哀しさを増します。

今、同世代のごく一部の暴走族やひったくりを繰り返す人は、冥利の悪さを知って欲しいものです。しかし、その人たちを育てたのは私たちですから、ささやかながら民生委員活動で、せめてもの罪滅ぼしをしたいと思います。

(座間市第五地区民児協 園田克)

▶投稿をお寄せください◀

「福祉について思うこと」をテーマにした投稿をお待ちしています。他のテーマや本紙内容へのご意見ご感想でも結構です。分量は700字程度。匿名でも結構です。



郵送：〒221-0844
横浜市神奈川区沢渡4-2
FAX：045-312-6302
Mail：kikaku@jinsyakyo.or.jp
いずれも「県社協企画課タイムズ係」と明記のこと

県社協のひまわり

福祉医療ネットワークの広がりを願う

去る十一月十三・十四日の両日、横浜市内において「第十四回全国福祉医療施設大会」(全社協・全国福祉医療施設協議会、神奈川県医療福祉施設協同組合、本会主催)を開催しました。

秋晴れの横浜には、例年を上回る二百四十二名の参加者が集まり、「福祉医療施設と関係機関のネットワーク」をテーマに、熱のこもった意見発表が行われました。

初日は、高橋信夫全国福祉医療施設協議会会長より、福祉医療施設を巡る昨今の情勢が報告された後、「少子高齢社会と社会保障改革への課題」と題した、山崎泰彦神奈川県立保健福祉大学教授の講演があり、「保健・福祉・医療の連携を、ぜひ実現してほしい」と、激励の言葉をいただきました。

シンポジウムでは、外国人のための医療通



第42回社会福祉研究発表大会開催のお知らせ

本年度の大会テーマは「契約時代の福祉サービスの現状と課題」～契約における利用者と提供者の関係～です。午前中はシンポジウム、午後は各分野からの様々な取り組みの研究成果を分科会形式で発表します。

多くの皆さまのご参加をお待ちしております(参加費2,000円)

〈日時・会場〉 平成16年2月13日(金) 10時～ 神奈川県社会福祉会館
〈シンポジウム〉 高齢・障害・児童の各分野で活躍中の方々をシンポジストに向かえ、「契約時代の福祉サービスの現状と課題」を考えます。

〈分科会発表〉

第1分科会 地域交流・地域連携

障害当事者や施設による地域交流実践の報告や提言など

【発表者】大石忠・湘南希望の郷・薫風学園・神奈川県身体障害者連合会・横浜市なしの木学園

第2分科会 子育て支援・保育・家族支援

子育て支援、緊急一時保育、被虐待児受入れについての実践など

【発表者】あおぞら保育園・あおぞら第2保育園・あおぞら第2保育園病後児保育室・県央里親会

第3分科会 児童のケア

児童の個別性に着目した支援やケアの取り組みなど

【発表者】ゆりかご園・県中央児童相談所・県総合療育相談センター・県立おおいそ学園・中心子どもの家・県立中里学園

第4分科会 高齢者のケア

高齢者へのサービスのあり方や職員の意識改革への取り組みなど

【発表者】潤生園・潤生園訪問食事サービスセンター・ゆうらいふ横浜・老人保健施設レストア川崎

第5分科会 障害者のケア①(療護施設等での取り組み)

身障療護施設等での利用者支援の効果や施設のあり方など

【発表者】湘南希望の郷ケアセンター・足柄療護園・ソーレ平塚・弘済学園

第6分科会 障害者のケア②(自立支援等)

日中活動や余暇支援による、生活の充実や自立への取り組みなど

【発表者】神奈川県ワークショップ・湘南希望の郷ケアセンター・藤野さつき学園・県立三浦しらとり園・弘済学園

第7分科会 障害者のケア③(男女交際、障害認識、高齢知的障害者への支援等)

知的障害、高次脳機能障害者への支援実践と課題など

【発表者】通所更生施設つくし・厚木精華園・七沢更生ホーム・さがみ野ホーム

第8分科会 障害者のケア④(行動障害等)

行動障害への支援実践と周辺環境の整備、地域連携など

【発表者】県立ひばりが丘学園・県立三浦しらとり園・県立中井やまゆり園

展示発表 摂食指導アンケート (ソーレ平塚)

〈申込み・問い合わせ〉 かながわ福祉人材研修センター研修研究課

☎045-311-1429・FAX045-313-0737

訳派遣システムを作り上げてきた事例や法人内の他種別施設との連携、未熟児医療を通じて地域貢献、地域のケアマネジャーのスキルアップを図りながら、患者を支えるネットワークを形成した事例などが発表されました。

二日目は、「経営実践」「福祉医療実践」「MSW実践」の三分科会に分かれ、早期相談を可能にするシステムの導入や動物を介在させる補助・代替療法の取り組み、ボランティア

の主体的な活動を組み入れた精神保健の地域活動など、様々な活動報告がなされ、場内参加者との活発な意見交換が行われました。

最後に、来年度の開催地となる大阪府の團野迪樹全国福祉医療施設協議会副会長より、「この大会は、我々福祉医療関係者が使命感を新たにする決起大会である」との挨拶があり、盛会のうちに閉幕しました。

(社会福祉事業課)

かながわ長寿社会開発センター

**いき²
はつらつ**

高齢期を健康で、いきいきと過ごしたいー
明るく活力ある長寿社会の実現に向けた取
り組みを紹介します。

〈問合せ〉 ☎045-311-8734 FAX045-312-6302
http://www.nenrin.or.jp./kanagawa/

広がる交流、あふれる感動、輝く笑顔…

～ねんりんピック徳島2003 神奈川県選手団大活躍！～

10月18日から21日までの4日間、抜けるような秋晴れのもと、「ねんりんの 渦よ 輪になれ 踊り出せ」をテーマに、高齢者の健康と生きがいを目的としたスポーツ・文化・健康・福祉等の一大祭典「第16回全国健康福祉祭（ねんりんピック徳島2003）」が、徳島県内4市15町1村で開催され、各地で熱戦と交流が繰り広げられました。

第十六回を迎える本大会に、本県からは卓球、テニス、ソフトテニス、ソフトボール、ゲートボール、ペタンク、弓道、剣道、グラウンド・ゴルフ、太極拳、ソフトバレーボール、サッカーの十二種目に、横浜・川崎を除く地域から九十七名の選手が参加しました。年齢も六十歳から八十三歳と幅広く、これまでの競技歴も様々ですが、大会を待ちに待って練習を重ねてきた精鋭たちばかりです。



神奈川県選手団の堂々の入場行進

競技に先立ち、十月十八日には徳島県鳴門総合運動公園陸上競技場で総合開会式が行われ、本県選手団もソフトテニスで参加の柳下良巳さんを旗手に、清水勝夫団長

（かながわ長寿社会開発センター長）以下堂々と入場行進。メインスタンド前では、ソフトボールに参加の野田俊男さんが、本県と選手団を紹介する「お国自慢」を披露。にこやかに神奈川県ブルーのハシカチを振る選手の表情は、実に晴々していました。

翌十九日からは徳島県内の各市町村に分かれ、各種目競技が行われ、あちこちで、年齢を感じさせないはつらつプレーや熟練の技の数々が繰り広げられるとともに、全国から集まる仲間たちとの交流が深められました。

「競技開催地の山城町では、町長さんはじめ町民が一致協力して私たち選手を歓迎してくれた。特に、地元小学校の可愛い生徒さんが、先生と一緒に応援にかけつけてくれた時は、涙が出る程感動しました」グラウンド・ゴルフというように、各会場では、「お四国さん」で培われた地元ボランティアの心温まるもてなしと、選手の健闘をたたえる観客の拍手や声援が溢れ、阿波踊りのように活気と情熱のある元氣一杯の大会となりました。

本県選手は日頃鍛えた成果を発揮し、太極拳が四位、剣道がベスト8と大健闘。惜しくも入賞を逃したチーム・選手も含め、誰もが、全国の人々との競技はもちろん、

出会いと交流に意を用い、持てる力を尽した充実感に満ちていました。

「この交流を機に、これからは他県の人たちと文通や交流試合をしよう」と、皆で話し合ったんだよ」（ペタンク）など、これからの活躍を期待できる熱いコメントも返ってきました。

今後は、この経験をもとに自身活動を深めることはもとより、それぞれの地域に帰り、高齢者のスポーツを通じた生きがいづくりの普及に向け、率先して活躍してくれることを期待しています。

なお、次回（第十七回）の全国健康福祉祭は、平成十六年十月十六日から十九日まで群馬県で開催されます。



「ついていけよ！」大きな声で指示が飛ぶ（サッカー）

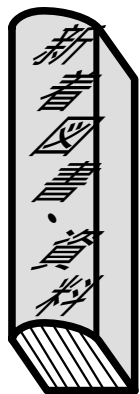


図 書

読んでみよう！ ★もう施設には帰らない2(10万人のためのグループホームを！実行委員会、中央法規)
地域で暮らし始めた知的障害者15人、家族、コーディネーターの、「施設はいらない」と決意した切実な声を紹介している。

★成長するソーシャルワーカー(保正友子・高橋幸三郎 他、筒井書房)
★改訂 社会福祉施設運営論(老人・身体障害者福祉施設を中心に(小松幸男、中央法規)
★富山からはじまった共生ケア(富山県

私のおすすめの1冊

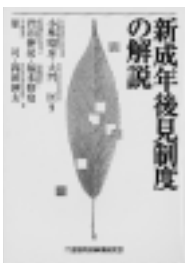
「新成年後見制度の解説」
小林昭彦・大門匡 編著



(株)神奈川県社会福祉士会
事務局長 鈴木 清

痴呆、知的障害、精神障害等により判断能力が不十分であるため、たとえば、自己に不利な契約であっても、その判断ができずに契約を締結してしまう恐れがあります。この方々の権利や利益を擁護する制度が、「法定後見制度」(補助・保佐・後見)です。また、本人が判断能力を有している間に、自己の判断能力が不十分になった時の後見事務の内容を事前に契約し、自己の希望する生活を保証する制度が「任意後見制度」です。

本書の特徴は、成年後見制度の立案に関与した法務省や最高裁の専門家が、制度の内容を判り易く解説していることです。



2000年刊、全社協
金融財政事情研究会、
定価4,600円

資 料

価値あり！ ★独自の取組みに挑むデイサービスセンター実践事例集(全社協・全国老人福祉施設協議会)
評価事業や相談事業、地域支援等、地域にある社会福祉施設の使命を全うする事業所として、独自の運営に取り組むデイサービスセンター事例を紹介。

民間デイサービス連絡協議会、CLC)
★福祉のNPOを元気にするマネジメント【訪問介護編】(NPO法人市民セクターよこはま)
★パワーリハビリテーションNo.2(介護予防・自立支援・パワーリハビリテーション研究会、医歯薬出版)
★精神障害者と家族のための生活・医療・福祉制度のすべてQ&A(杉本豊和・森谷康文 他、萌文社)

★養護版ケアプラン(養護老人ホームにおける自立生活支援(神戸市老人福祉施設連盟・(株)兵庫県老人福祉事業協会)
★市民団体による高齢者のための相談窓口(本間郁子&特養ホームを良くする市民の会)
★ケアマネジメントの原則に則った実践の確保方策に関する研究 報告書(財長寿社会開発センター)
★自助具ハンドブック(財テクノエイド協会)
★横浜いのちの電話外国語相談(LAL)10年間の活動報告(横浜いのちの電話外国語相談)
★ギャンブル依存症からの回復(希望のメッセージ(ワンデーポート))
★路上生活者実態調査事業報告書(東京社会福祉士会・新宿区)
★NPOと就労の可能性(阪南自治体労働行政協議会)

「福祉資料室」をご利用ください！

閲覧室のほか、文献検索、利用相談等のサービスを行っています。

◆利用時間：月～金(第3金曜、祝日、年末年始等を除く)の9時～17時

◆問合せ：☎045-311-8865
FAX 045-313-9341

◆インターネットでの資料検索
<http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/tosyo/>

～「新着情報コーナー」ができました。ぜひご利用ください！～



今月のいちおし クリック！

「メディナビ ～オンライン医療情報ナビゲータ～」

のホームページをご紹介します

医療機関で納得のいく「診察」、「検査」、「治療」を受けるために必要な知識や助言が掲載されているサイトです。診療の流れの理解や医師とのコミュニケーションを円滑にするためにヒントのほか、体の気になる症状のチェックや検査・治療の意味が分かるコーナー等があります。



<http://www.medi-navi.com/>

Information

全日本冠婚葬祭互助協会「社会貢献基金助成」

◇対象団体＝次の条件を満たす非営利組織（法人の他、任意団体、市民ボランティアグループも対象）①定款に準ずる規約を有し自らが経理し、監査できる会計機能を有する、②主な事務所が国内にある、③活動を執行する体制が確立している、④活動実績が3年以上ある、⑤他の団体等からの助成を除く自己資金を保有していること

◇対象事業＝①高齢者、②障害者、③児童、④環境・文化財保全、⑤国際協力・交流等の事業費

◇助成金額＝一件あたり2百万円

◇×切り＝2月末日必着

◇問合せ＝同協会公募受付係

☎03－3433－4415

FAX 03－3435－0880

全社協・中央福祉学院社会福祉主事資格認定通信課程受講案内を配布中

◇受講資格＝民間社会福祉事業の職場に、16年4月1日現在勤務（予定）の職員

◇受講期間＝平成16年4月から1年間の通信授業（5日間の面接授業あり）

◇受講料＝8万円（受講承認通知受理後

一括納入）

◇受講申込み＝所属長より全社協ロフォス湘南へ直接申込み（個人での申込は不可）

◇受講申込み×切り＝1月31日（土）

◇受講案内の入手方法＝①本会研修研究課で直接受け取り、②郵送希望の場合は、1部140円、2部の場合は180円分の切手を返信用封筒（A4判）に貼付し送付

◇配布期間＝1月16日（金）まで

◇送付・問合せ先＝本会研修研究課

〒221－0844 横浜市神奈川区沢渡4－2

☎045－311－1429

FAX 045－313－0737

神奈川県身体障害者施設協会作品展

◇内容＝協会加盟の県内身体障害者関係施設の利用者による、絵画、写真、書道等の作品展です。施設製品（陶芸、木工、お菓子等）の販売もあります。（入場無料）

◇日時＝1月19日（月）～21日（水） ※時間はお問合せください

◇会場＝かながわ県民センター

◇問合せ＝ソーレ平塚（担当：津野）

☎0463－59－3933

FAX 0463－59－3416

第2回献血俳句コンテスト作品募集

◇内容＝生命・愛・友情・助け合い・感動など、献血について思うこと、感じたことを俳句で募集

◇応募資格＝年齢、性別、国籍は問いません。東京・神奈川・千葉・埼玉・群馬・茨城・栃木・新潟・山梨在住の方

◇応募方法＝官製葉書（応募専用葉書もあります）又はFAX、インターネット（<http://www.kenketsu.ne.jp>）で、作品、住所、氏名、年齢、職業（学校名、学年）、性別、電話番号を明記して応募

◇×切り＝1月16日（金）当日消印有効

◇問合せ＝献血俳句コンテスト事務局

☎03－5821－0425

FAX 03－3937－6660

本紙16年1月号発送日のお知らせ

年末年始等の事情により、通常より本紙発送が遅くなります。予めご了承ください。いますようお願い申し上げます。

寄付金品ありがとうのじやうまつた

【一般寄付金】▽協隆志▽田中良平▽広瀬公子（ともに基金）▽㈱ホテル観山▽㈱神奈川県技能士会連合会▽県立よこはま看護専門学校▽富士シテイオ㈱FUJI鶴嶺店▽足柄上県税事務所▽横須賀三浦地区農政事務所▽県出納局総務課▽県立小田原高等職業技術校▽ニューモラル神奈川県レディースサークル▽足柄上教育事務所▽横須賀三浦地区行政センター▽三浦保健福祉事務所▽かながわ女性センター▽としびポスター絵本コンテスト表彰式来場者▽武内ちとせ▽沼倉清治（計二九、〇八四円）

【寄付物品】▽長瀬清志税理士事務所▽神奈川県定年間題研究会▽神奈川県機器健康保険組合▽㈱荒川莫大小製造所代表取締役 荒川慶一▽トヨタ自動車㈱▽住友生命保険相互会社町田支社▽タスグループ▽杉本孝子▽原田三郎（敬称略）

（お詫びと訂正）11月号の3面「表」に誤りがありました。町村部「策定未定」の数値は、正しくは「8町（村）」です。お詫びして訂正いたします。

“福祉の心を大切にする
社会福祉従事者の
育成を目指して”

▼国際学園
横浜国際福祉専門学校

◆社会福祉学科・介護福祉学科・児童福祉学科・総合福祉学科

〒227-0053 横浜市さつきが丘 8-80

TEL0120-88-3294 ホームページは <http://www.yicsw.ac.jp>

あなたの情報発信のおてつだい

デザイン・印刷・ホームページ制作

ときがらし印刷
KKI 株式会社 神奈川機関紙印刷所

〒226-0004 横浜市金沢区福浦 2-1-12
営業部 TEL045(785)1700/91 FAX045(784)8902
制作部 TEL045(785)1780 FAX045(788)1598
<http://www.kki.co.jp/>

心のゆたかさはぐくむ⑨

ゆとりある人生を演出する ②

今回は、「音楽療法」の実践研究の様子から、主に医療分野で発展してきた「音楽」の治療効果を、福祉の対人援助活動に効果的に活用していくために必要な事柄を考えました。

今回は、「財団法人動物病院福祉協会」が行う、コンパニオン・アニマル・パートナーシップ・プログラム（CAPP）の活動から、動物と人間が築く「絆」から生み出される様々な効果についてご紹介してみたいと思います。

人と動物の絆をはぐくむ

一九七八年に創立、一九八七年法人化された「財団法人動物病院福祉協会」以下、協会は、動物病院が中心となり、人と動物との絆（ヒューマン・アニマル・ボンド＝HAB）を大切にし、その普及に向けた様々な活動を行っています。

その一つ、コンパニオン・アニマル・パートナーシップ・プログラム（CAPP）は福祉施設や学校、病院等にボランティアと動物が訪問して、動物とのふれあいを通じ、生活の質の向上や情緒的安定などを旨とする動物介在活動です。

「一九八六年から始めたこの活動は、本年三月で五千二百回を数えました。当初は動物が人間と関わることで、感染症などによる病気やけがなどの安全性が心配されました。しかし、動物の躰や健康、衛生管理等の厳しい基準を設けた結果、活動中の事故や人へのアレルギー反応な

動物の温もりが伝えるもの

活動を見学させていただきました



動物たちのひたむきな姿とボランティアの温かい言葉がけで自然に場がなごんでいく

た。その日訪問したのは、茅ヶ崎市にある知的障害者更生通所施設「湘南鬼瓦」。ボランティアの方々や学生、動物病院のスタッフなど約十五名のほか犬や猫、兎たち十数頭（羽）が、事前の入念な打ち合せの後、利用者の集まる広間に入っていきます。

訪問を楽しみにしていたように、小走りに近寄ってくる人。恐々とそばまでやってきて、軽く触っては離れていく人。遠巻きながらも、



利用者のしぐさを見ていると慈しむ気持ちが満ちてくる様子が分かる

興味深げに様子を見つめる人。そのどの人も、見る見るうちに和んだ表情になり、初めは無口だった人も次第に歓喜の声をあげ、動物に語りかけるようなしぐさをするなど、その変化には目を見張るも

のがあります。

「多くの方は、動物たちの来訪を指折り数えて心待ちにしています。一見、興味がなさそうな素振りをしたり顔を背けたりしている方でも、実は活動の輪の中に入りたいと思っている方も少なくありません。そういった方には、動物との接し方を丁寧に伝え、きつかけを作りながら徐々に交流していくよう配慮しています。そんな、『声をかけてみよう、手を伸ばしてみよう、関わってみよう』という意欲を育んでいくことが、活動の大切なポイントとなります」と水谷さん。

動物たちはどんな時も鳴くこともなく、好奇心いっぱい利用者と関わっていきます。しかし、そのつぶらな瞳の奥にある心の微妙な変化を、スタッフは常に注意深く観察しています。

「利用者さん同様、動物たちも活動する日を楽しみにしています。その証拠に、私たちが活動ユニフォームを着たり道具を準備し始めると、興奮してはしゃぎ回ったりする子もいます。皆、人間とのふれあいが大好きなのです。しかし、利用者の皆さんが嬉しいあまりに力を入れ過ぎて扱ったり、長時間拘束すると、楽しさが強いストレスに転じてしまうこともあるので

ひと・ネットワーク 134

「友人たちとともに街を 歩いて学んだこと」

ドリームナビゲーター横浜代表
筑波大学附属盲学校教諭
佐々木 夏実



私は盲学校で中学生や高校生と社会科（地理）を学んでいる教員です。私の右目は視力が0.02というロービジョンですが、この視力が逆に役立つ場面も少なくありません。

障害のある子どもたちと接する職場にいて、IT（情報技術やコンピュータ、情報通信）の可能性をいろいろ知りました。インターネットは視覚的な情報が中心ですが、それを音声に変換することで様々な情報を知ることができます。このITを利用して、世の中に出ている障害者のことを多数知りました。

私は、夜や休日は横浜で障害のある友人たちと過ごすことが多いです。ITを利用したいけどうまくいかない困っている友人の支援やもっとITを利用できるように仲間づくりをしようと、パソコンボランティアのミーティングやイベントに参加するからです。

それが終わると、そこで出会った人たちと横浜の街を夜な夜な歩きます。車椅子に乗る友人や白杖を頼りに歩く友人などなど、一緒に街を歩き、うまい食べ物やおいしいお酒が飲めるところを探しまわります。しかし、行ってみるとそこには階段が何段もあったり、トイレがうまく利用できなかったりします。何度も行くうちに、店の人が近くまで迎えに来てくれるようになったお店もあります。また、いつの間にか近くに人が集まって来て、助けてくれたところもあります。上手な日本語で話しかけてくれ、一緒に車椅子を持ち上げてくれた中国・韓国・フィリピンの人と友人となり、アジア各地のことを知る機会に恵まれたこともあります。まさに街は学びの場です。障害のある人とともに街に出る中で、私が学んだことは多いです。

県民センター13階に、障害者等常設IT展示体験サロンができました。私はこのサロンの運営を含めた、障害者・高齢者等IT普及推進協議会委員、同普及啓発会議の委員長をしています。このサロンもこうした人々の出会いの場のひとつになればと思っています。

心通じるパートナーとして

動物と人間との関わりによって生み出されるものは、単に楽しさや安心感だけではないのだと、水谷さんは言葉を続けます。

「例えば、以前訪問した動物の名前を覚えていて呼びかけてきたり、訪問できなかった時のことを何度も悔やまれたりと、利用者さんが思い思いにその瞬間の出会い

を強く脳裏に残し、生きる糧とされていることを感じます。また、声かけや触れる行為は身体感覚のリハビリに。動物を介したボランテアとの交流は、積極性の向上や交友関係の円滑化の一助に。そして、常に支援され受身の立場であるとともに、喪失感を抱きながら方々が動物の世話をする中で、自分が必要とされていると感じ、もっと多くの人たちと関わってきたいと願う。そんな気持ちの広がりこそが、真のノーマライゼーションにつながるのだと思うのです」と結んでくださいました。

◆社団法人動物病院福祉協会

TEL 03-3235-3251

URL <http://www.jidai.or.jp/>



生命の「温もり」は、何にも代え難いものだと感じさせられた今回の取材。

まるで、自分の友だちか兄弟のように動物たちに語りかけ、いとおしむように体を撫でている姿を見てみると、相手が人間であっても動物であっても、互いに慈しみ、肩を寄せ合う存在があることが、生きていく上で、どんなに大切な意味をもっているのかを感じずにはいられなくなります。

活動の終わりに、ボランティアの方の「また来るね」との言葉も耳に入らない様子で、玄関先まで動物たちを見送りにきていた利用者の切ない表情が、明るかった活

動中の表情と裏腹で、とても印象に残りました。

「私たちは福祉の専門家ではありませんので、利用者さんに対して専門的な支援をすることは難しいです。しかし活動を続ける中で、刻々と変化する利用者さんたちの様子を、施設の方に積極的に伝え、伝えることでお手伝いができれば」と話されていた水谷さん。

活動する方々が福祉を理解しようと努力されているように、受け入れる私たちも、パートナーとなってくれる動物たちや活動の意味を正しく理解するとともに、常にいとおしむ気持ちを忘れないことが、生命という尊きものへの礼儀なのではと感じました。（企画課）



ボランティアの協力で、幅広い住民ニーズに対応 日野南地区社会福祉協議会（横浜市港南区）

横浜市港南区の日野南地区は、横浜市南部の丘陵地帯の大規模な一戸建て宅地造成地で、周辺に空き地や田畑がほとんどなく、地区中央部を環状三号線が通り、商店とマンションが点在する地域です。人口約四千七百人、世帯数約一千八百世帯、高齢化率二四・九％（地区社協独自調べ）と、高齢化率が高い一方で、子育て問題も深刻になっています。

福祉ネットワーク事業とは

港南区では、各地区社協を実施主体として、ボランティアの協力を得た住民相互のたすけあい活動「福祉ネットワーク事業」を進めています。活動内容は家事支援（炊事・掃除・買い物）、話し相手、草とり、ごみ出し等々、地区社協の独自性・地域特性に応じて展開しています。

日野南地区社協（以下、地区社協）では、高齢者の懇談の場「おしゃべりくらぶ」・子育て中の親子の場「ひよっこClub」・送迎グループ「送迎ボランティアーズ」・

障害者グループホームの夕食作りをする「さくらの会」、その他に、会食会・ミニデイサービス・健康体操・福祉相談室などを実施。こうした活動を支えるボランティア登録者は百九人、常時八十人程度が活動しています。



クリスマス会ひよっこclub全員集合！

地域に気軽な親子の場づくり

活動の一つの「ひよっこClub」は、平成十二年二月に地区社協で、公園にいる乳幼児を連れのお母さんを対象にアンケートを行ったところ「身近に集まる場があれば

ば参加したい」、「自由に遊べる場がほしい」などの声が多くあがったことから、自治会館の建て替えを機に活動を始めました。毎週水曜日午前中に開設し、毎回十数組程度、イベントの際にはさらに多くの親子が参加され、ボランティア八名が運営を支えています。

「お母さん同士の自由な語り合い」を趣旨にしているため、事前申し込みの必要はなく、行きたい時だけ参加できる気軽さが好評です。開設から三年。成長とともに子どもの顔ぶれは変わりますが、絶えず新たな参加者が加わり、親子の場は地域にしっかりと根づいたものになってきています。

住民の声をつなぎあわせて

地区社協では、同時期に住民向けの福祉アンケートも実施。地区社協活動を応援する内容やボランティアとして協力してもいいという内容があれば、批判的な意見もあります。様々な声をつなぎ合わせながら、できることを少しずつ実現していくことが大切と考えています。地区住民（ボランティア）の協力を得て「住み続けたい」地域づくりを目指します。

（日野南地区社協・港南区社協）
※本年度の県社会福祉大会で、優良地区社協として表彰されました。

—社会福祉施設の設計監理—

株式会社 安江設計研究所
YASUE & ASSOCIATES'Inc.

東京都港区高輪2-19-17-808

TEL03(3449)1771(代)／FAX03(3449)1772

E-mail：BCH12011@nifty.com



K保育園（横浜市）



新築・増築・改修等お気軽にご相談ください